

令和 6 年度 林業普及週間現地情報(10/7～10/8)

森林管理課

林業普及職員 一般研修

10月8日(火)

令和6年10月7日（月）～8日（火）の日程で、県の森林資源研究センターにおいて林業普及職員を対象とした一般研修会を実施した。

今回の研修会は２部構成で、第１部は今年度上半期に実施した沖縄県産木材利用に関する県外への普及ＰＲや視察研修の結果など、３件の報告を行った。

本庁からは、8月17日～18日に東京都で開催された『WOOD コレクション 2024「JAPAN ReWOOD」』に出展した内容等の報告があった。沖縄県からは県庁（森林管理課、八重山農林水産振興センター）のほか、県内木工業者（6者）が参加し、沖縄県産木材についての普及PRやアンケートを実施した。

次に、八重山農林水産振興センターからは、県外の※銘木市場における島産材のＰＲ及び販路開拓検討のため、７月１６日～１９日及び８月１９日に実施した大阪府ほか４都県の銘木店への情報収集等について報告があった。

(※銘木：木材形状が美しく観賞価値が高い、又は材質が優れていて希少価値の高い木材)

最後に、北部農林水産振興センターからは、広葉樹利用についての情報収集のため、岐阜県飛騨市で実施されている「広葉樹のまちづくり」について、9月10日～12日に実施した視察研修の報告があった。飛騨市は約94%の森林率で、そのうち広葉樹天然林が68%を占めており、沖縄本島北部と近似した森林資源状況となっていることから視察研修先として選定した。

これらの視察等の結果は、必ずしも県産木材利用拡大に即反映できるものばかりではないが、今後の参考になる知見も多かった。



研修会第2部は、木工でのレジン活用方法に関する講習会を行った。レジンを用いた木工製品（ウッドレジン）は、これまで廃棄されがちだったウロ（樹洞）材やミミ（丸太の皮付近）部分、また端材なども活用できることから、県産木材の利用方法の一つとして注目されている。

森林資源研究センター担当研究員指導のもと、コースター作りを体験した。県産木材の個性的な木目や材色と鮮やかな色彩が出せるレジンを組み合わせて、それぞれ完成品をイメージしながら作業を行った。参加者は全員初めてのウッドレジン製作だったが、それぞれ趣のある作品に仕上がった（と思ってる…）。



今回の研修会で得られた知見や技術で、今後も県産木材利用拡大に繋がっていきたい。

（ 報告者：森林管理課      大城、桑江、石垣）